

飯能市立飯能第一小学校 × 放課後児童クラブ × 飯能中央地区行政センター

複合施設の建設に係る基本構想

飯能市立飯能第一小学校等建替え及び複合化に関する協議会

令和5年3月

1 基本構想(複合施設コンセプト)を検討する上での留意すべき視点

小学校と放課後児童クラブ、地区行政センターの複合化は、飯能市で初めて行う施設整備のケースです。不安や懸念もありますが、大きな期待感もあります。不安や懸念を解消し、各施設がその役割と機能を果たし、相乗効果を発揮できる整備が望まれます。

複合施設の目指すべき姿を検討する中で、地域の皆様のご意見やアイデア、込められた想いや期待等を踏まえ、基本構想(複合施設コンセプト)を検討する上で、留意すべき6つの視点をまとめました。

(1) 安全性の確保

複合施設では各施設間の相互利用等の可能性が広がり、多数の地域住民等の利用が見込まれます。子どもたちの安全を第一に考え、安心して学校生活を送れるようにするとともに、地域住民も安心して利用できるよう、安全性を確保するための対策が重要です。

(2) 地域の防災拠点

近年、大規模化しつつある災害から子どもたちや地域住民を守るためには、地域で起こりうる災害を想定した施設の整備が重要です。地域の避難所や情報の集約・発信をする地域の防災拠点としての機能を高めるとともに、平時から連携・協力しやすい環境が期待されています。

(3) 教育・子育て支援

主に、小学校や放課後児童クラブの役割や機能を果たすために、安心、安全な教育環境・生活環境を確保するとともに、創造的・探究的・協同的な学び、質の高い教育を実現する施設整備が重要です。さらに、子どもたちの居場所を創出し、地域全体で子どもたちを見守り、成長を支援できるような空間が期待されています。

(4) まちづくり・地域コミュニティ

主に、地区行政センターの役割や機能を果たすために、地域行政の拠点として地域の実情に応じた行政サービスの提供と、市の魅力や情報を発信し地域活動を支援できるような施設整備が重要です。さらに、地域の人々が気軽に立ち寄り集うことで、自発的な活動や交流の広がりが期待されています。

(5) 伝統文化・生涯学習

主に、公民館の役割や機能を果たすために、各世代や地域の特性に応じた、多様な生涯学習の機会が図れるような施設の整備が重要です。さらに、地域の教育力(地域人材の学校教育活動への参加)を子どもたちの主体的な学びに活用し、地域の伝統や文化が次世代にも受け継がれるような多世代交流機会の創出が期待されています。

(6) 森林文化・環境

飯能市の特産品である西川材を活用し、森林文化の魅力と価値が伝わるような、安らぎとぬくもりのある空間づくりが重要です。また、自然環境と調和した、環境にやさしい持続可能な施設づくりが求められています。

2 必要条件

基本計画を作成するにあたり、複合施設に必要となる条件を整理しました。

子どもたちが安心して学校生活を送れるようにするとともに、高齢者や障がい者はもちろんのこと、多様な人々が安心して利用できるように計画します。

(1) 防犯（不審者等の）対策

複合施設においては、利用目的や利用形態等の異なる多数の地域住民等が利用することから、子どもたちの安全を第一に考え、不審者の侵入等を想定した防犯面での対策が必要です。

<視認性の確保（例）>

- 正門や通用門などを見通せる位置に職員室や事務室等を配置
- 死角を無くし、見通しの良い施設配置
- 夜間、人の行動を視認できる程度以上の照度を確保

<領域性の確保（例）>

- 出入口の集約化
- 門、囲障の設置等（守る範囲を物理的に明確化）
- 花壇などの効果的配置（園芸ボランティアの活用等）

(2) 事故防止（車の出入り等の）対策

複合施設においては、車での出入りも多くなると予想されることから、駐車場の配置を含めた、事故防止の対策が必要です。

<駐車場の配置（例）>

- 施設ごとに駐車場を設けるなど、明確に区分
- 必要とする面積を適切に配置
- 学習活動等に支障のない（動線が交わらない）配置
- 歩車分離
- 車の流れが作れるような配置

(3) 防災対策

災害時には地域の避難所となることから、地域で起こり得る災害に対し安全な施設環境であるとともに、防災機能を備えた整備が必要です。

<災害時への備え（例）>

- 非常用電源等の確保
- 避難所を想定した施設・インフラの整備
- 校庭への緊急時の避難、車両の進入経路確保
- ICT 技術の活用

3 基本理念

「人づくり × まちづくり」未来へつなげる地域の交流拠点
～ 世代を超えたつながりの中で、学びあい、育ちあえる場所 ～

飯能第一小学校や飯能中央地区行政センターを含む飯能地区は、天覧山や飯能河原など豊かな自然に囲まれていると同時に、古くから栄えてきた活気ある商店街などを有し、市の発展とともに歴史を歩んできました。長い年月の中で、人々の地域への愛着や誇りが、大らかで懐の深い地域性を育み、現在へと受け継がれています。

このようなまちの古き良き伝統や風土を継承しつつ、未来に向けて、世代を超えた学びあいや育ちあいによる「人づくり×まちづくり」が促進される、地域の核となる新たな施設を目指します。

■ 人づくり

どのような時代であれ、教育・学びの本質は「人」を育てることです。

人生100年時代と言われる中、チャレンジ精神と豊かな創造性を育むとともに、将来にわたりいきいきと学べる空間づくりを目指します。

また、地域の自然や伝統文化とのつながりを大切にするとともに、先端技術を活用し、世代や立場を超えて自由に学び、成長しあえる空間づくりを目指します。

■ まちづくり

多様な人々が集い、安心して心地よく過ごせる空間には、賑わいやコミュニティが生まれます。様々な人との交流やつながりの中で、地域活動が活性化し、さらにはその成果を地域へ還元できるような、好循環の生まれる空間づくりを目指します。

また、西川材を活用しながら周辺環境との調和を大切にし、開放感を持たせつつ、防災・防犯面との両立も実現します。

4 複合施設コンセプト

複合施設の基本理念を実現していくにあたり、50年先を見据え、必要となる3つの施設コンセプトと関連するキーワードを整理しました。

コンセプト（1）教育と学びの場

- ・多様な学習内容、学習形態に対応できる空間
- ・伝統文化の継承
- ・地域の人の持つ能力、技術の活用の場
- ・多様な生涯学習機会の創出
- ・互いを認め尊重できる場

コンセプト（2）地域の人と人とをつなげる交流の場

- ・地域のニーズや課題の把握
- ・地域の情報発信機能
- ・自主的な地域活動の支援、コーディネート
- ・共助の力の醸成
- ・地域で子どもたちを見守ることができる環境

コンセプト（3）自然環境と調和したくつろぎの場

- ・環境に配慮した施設
- ・子どもの居場所(サードプレイス)
- ・落ち着いたのびのびと過ごせる施設
- ・気軽に立ち寄り集える場所

5 より良い施設に向けて

地域の核となり、基本理念にある「人づくり×まちづくり」を実現していく施設とするためには、施設の整備にとどまらず、行政、保護者、地域住民、利用団体、学校等の関係者が、ともに連携協力し、たゆまぬ努力により創りあげていくことが何よりも大切です。